

農林水産省関東農政局長賞

「私と父とお昼ご飯」

鎌倉市立大船中学校

3年 上野 涼花

私が、小学五年生の頃から父は兵庫県へ単身赴任しています。月二回のペーパーで家に帰ってくるのですが、家に帰ってきてても、パソコンと向きあっている時間が多く、父は寡黙な人なので私は父とあまり会話がありません。それでも、単身赴任前のほうが会話は多かったので、変わってしまうこともあるんだなとさびしさを感じてしまいます。

そのような私と父なのですが、変わらないこともあります。父が昼ご飯をつくってくれることです。母が普段ご飯をつくっているのですが、土曜日は朝から昼にかけてでかけるので、父が帰ってきている日は、いつも父がつくります。そんな日には、父はよくチャーハンをつくります。つくりすぎて土曜日の昼ご飯は、チャーハンと私達家族のあいだで共通認識となってしまうほどです。「でも、そんなに食べていたらあきてこないのかな」とそう思う人もいると思います。けれど、父のつくるチャーハンは、そんなことを思わせないほどおいしいのです。米がパラリとしながらもふっくらとした食感で、これといった特徴もない食材をつかっているのに、気がつけばお皿がからになる。そんなチャーハンを父はつくります。私は、母のチャーハンもおいしいと思うのですが、父のチャーハンにはかなわないです。

ある日私は、ふと思いました。「何故チャーハンなんだろう」と。気になった私は父にきいてみることにしました。

「お父さん。今時間ある。」

「なんだ。」

寡黙な父らしく、簡潔な言葉でかえされ私は、ああ、やはり父は変わってないなと思いました。

「お父さんさ、よく昼ご飯はチャーハンつくるじゃん。なんでかなって思っ
て。お父さんがチャーハンが好きってあまりきいたことがないからさ。」
すると父は

「つくるのが簡単で、家にある材料でつくれるから。」

「へー、お父さんらしい理由だね。」

そう言いながらも私は、簡単に家にある材料であんなにおいしいチャーハン
がつくれるのかと内心でそう思いどうせならと

「じゃあさ、何かつくる時に工夫していることとかってあるの。」

と質問しました。

「そうだな、色々あるが米がバラリとするようにしたりとかだな。」

私は、「特にない」などと言われると思いながらきいたので、ちゃんとした答えがかえってきて驚きました。

「そういうの気にしてたんだ。意外だな。」

私は言ったあとで、意外は失礼だったかと、言い直そうと口をひらきかけたら「ああ、おいしいと思う料理を食べてほしいからな。そりゃあ、工夫もするさ。」

と父は言いました。その言葉に私は、心があたたかくなるのを感じていました。父の思いやりが伝わったからです。

それから私は、お昼ご飯が前よりも楽しみになりました。また、父の昼ご飯をつくる姿を見ると、前までは何も感じなかったのですが、今は嬉しい気持ちになります。

私は、ご飯の時間で親子をつなぐことができるのは、とてもすごいし、すてきなことだと思います。

これからも、父との関わりを、週末の昼ご飯を通して、大切にしていこうと、あらためて思いました。